

令和5年度 大津市立和邇小学校学校評価書

【評価】 ③:よくできた ②:できた ①:あまりできなかった ①:まったくできなかった

項目			自己評価			学校関係者評価			今後の学校改善に向けて
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等		
主体的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペア活動・朝の会等、児童が関わろうとする機会を意図的に増やし、集団への帰属感を高めるようにしてきた。</li> <li>○ペアやグループ学習で伝え合う活動を行った。また発表会や伝え合う活動を設定することでコミュニケーションを図る授業改善ができた。</li> <li>○校内研究では主体的に学ぶ授業づくりをめざして教員が一体となって動けた。</li> <li>●話し合い活動を取り入れてきたが、活発に話せるかといわれると、まだ不十分などところがあるため、今後も継続する。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた授業が展開され、工夫や取組の成果を感じた。</li> <li>・実体験できる活動を多く取り入れる。</li> <li>・グループ学習を積極的に取り入れた授業に取り組んでほしい。発言が苦手な児童への小グループ活動は効果的。</li> <li>・情報共有が大事である。</li> <li>・30人以上の学習について授業の工夫、支援が必要である。</li> <li>・早く答えた児童の発言で授業が進まないよう起立してから発表する指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究で学んだ事を他教科でも活かしていくため必然性のあった活動をまとめる必要がある。</li> <li>・校内研究のテーマを学力向上とリンクすることで、取組内容を絞って力を入れていきたい。</li> <li>・認める声掛け等を通して協力する良さをもっと感じられるようにしたい。</li> <li>・視覚支援や学力を高めるツールとしてのiPadの有効活用の仕方を教職員同士が交流する機会や研修の機会を作り、さらなる授業の工夫改善に繋げる。</li> </ul>	
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。	2						
	3	主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修に取り組んだ。	2						
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々なテーマについて話す「人権の日」を月に1回設定し、児童の心を耕す機会とした。</li> <li>○保護者の方にも道徳の授業の様子をみていただく参観日を実施した。</li> <li>○道徳科の授業でより多くの多様な意見を聞き合ったり、ロールプレイでどんな気持ちになるかを体験させたりするなどの工夫をした。</li> <li>●道徳は学校の教育活動全体を通じて行うものであり、教職員の子どもたちへの関わりが大事である。授業も含め工夫が必要と感じる。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実に向けて工夫している。公開により教員の意識が高まっている。</li> <li>・学校全体での道徳教育への取組を強く感じる</li> <li>・学校全体で道徳心を育てていこうという雰囲気継続してけるよう、声をかけ合いながら指導している。</li> <li>・道徳の時間の取組や日常道徳の指導により、身近な事柄を取り入れて家庭や地域で実践力を育ちやすくすることが大切。</li> <li>・様々な場所でゴミが散乱している。道徳教育のさらなる充実をお願いしたい。わにっ子にはゴミを平気で捨てる大人になってほしくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で道徳心を育てていこうという雰囲気は今後も継続していく。</li> <li>・道徳の授業公開だけでなく、保護者と共に考える取組を取り入れる。</li> <li>・普段の学校生活の中でも道徳教育をもっと積極的にいき、道徳科の授業を生活に活かしていきたい。</li> <li>・交換道徳の推進や研修会を行う。</li> <li>・他社の道徳の教科書や学校全体で使える道徳教材が豊富にあると良い。</li> </ul>	
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流に取り組んだ。	2						
	6	積極的に保護者等への道徳科の授業公開を行った。	2						
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育科では活動する時間を十分にとることができた。また学年で協力しあい、指導法を検討しながら取り組めた。</li> <li>○体育委員会を中心に、体力向上の全校イベントを各学期に行った。特に、なわとびについては多くの児童が取り組んで、力を付けている。</li> <li>●体を動かすことに得意不得意があり、個々のモチベーションを高めることが難しいと感じることもある。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材の活用を図り、運動好きの児童を増やしてほしい。</li> <li>・児童の体力低下や運動機会の減少が問題視されている。アクティブチャイルドプログラムを取り入れてはどうか。</li> <li>・地域での外遊びが減少した現状では、学校での子どもたちの体力作りの活動はたいへん重要であり、積極的に進めていただきたい。</li> <li>・休み時間を活用して児童が自主的に取り組む仕掛けが施されている。</li> <li>・何でも経験して知ることが大事。</li> <li>・運動の目標が低すぎるので、もう少し高い目標をめざすとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス遊び等を通して普段外で遊ばない児童も外で体を動かす環境を作る。</li> <li>・体育科についての実技講習会の伝達を行うことで、授業力向上に繋げる。</li> <li>・体育の宿題を全校で取り組んでいるが、がんばった成果を表彰したり、披露したりする場を設定することで児童のやがいに繋げていく。</li> <li>・もっと運動時間を確保できるように効率の良い授業計画を立てる。</li> <li>・専門的な知識をもった方にも指導してもらえると、モチベーションが上がると感じる。</li> <li>・備品、消耗品を充実させていく。</li> </ul>	
	8	運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。	2						
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。	2						
指導改善	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めた。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習に向かう姿勢や、準備ができるよう声をかけている。おおむね達成している。学習に向かいづらい児童には、個人の目標を設定するなどの工夫をした。</li> <li>○2、3年生の算数科の授業で少人数指導を実施できたことで一人一人の理解度が深まった。</li> <li>○言語力の育成をテーマに全学年で国語科について授業を公開し、研究会では授業作りについて意見を出し合うことによって学びを深めることができている。</li> <li>○Microsoft365やメタモジによって、教材を共有でき、より視覚的にわかりやすく児童に興味関心を持たせられた。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル等喫緊の課題に素早く向き合い指導に活かされている。</li> <li>・校内研究の成果が児童の学力向上に結びついているか検証してほしい。</li> <li>・校内研究で授業公開し、意見を出し合っって学びを深めていることが児童の落ち着きに繋がっている。</li> <li>・職員室にて報・連・相がうまくなされていることも今後に引き継いでほしい。</li> <li>・教員が元気で生き生きと働くことが児童や学校にとって一番重要。管理職の先生には職員の健康管理に十分な配慮をお願いしたい。また、早めの相談、学年間での気配りが大事。</li> <li>・働き方改革が進む中、本質的な業務軽減になっていない段階だろうががんばってほしい。</li> <li>・評価委員や外部への書類や報告書等の業務を整理して無駄を省くことを強く推奨する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30名を超える学級には、算数科の少人数指導を導入する必要がある。</li> <li>・若手教員が中堅教員の授業を参観し、学ぶことができる体勢を整えていく。</li> <li>・学年間で仕事を分担し、効率的に取り組み超過勤務時間の短縮を進める。授業研究に時間を回せるように、業務の取捨選択や負担が集中しない工夫をする。</li> <li>・ユニバーサル・デザインについて研究する。また授業の準備をしっかりとした上で始業の合図と同時に開始を徹底していく。</li> <li>・タブレットの普及でできることの幅が広がった。子どもたちにはスキルを身に付けさせることにも、ルールを守ることや上手に関わることの大事さについても教えていく。</li> <li>・今年度と同様に連絡・相談しやすい雰囲気をつくっていく。</li> </ul>	
	11	教職員の指導力及び組織的な教育力の向上に努めた。	2						
	12	働き方改革の取り組みと教育活動の質の改善に取り組んだ。	2						

項目			自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて			
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等				
育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	13	2	2	<p>○全学年で地域の人材を活用した教育課程の作成ができています。</p> <p>○防災教育では、地域と連携した学びの環境づくりができています。</p> <p>○学校保健委員会にて、ＳＣによる子どもの心の育ちについての研修を行った。参加保護者から、子どもと関わる際の参考になったという感想が得られた。</p> <p>●児童の日頃の様子などを保護者と共有することは今後も大事にしていきたいところである。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学区スポーツ協会が主催する「秋の区民大運動会」に小学校の体育科発表を、春・秋のびわ湖一斉清掃活動は学区自治連合が主催で実施のところを合同で開催するのはどうか。</li> <li>・和邇学区は活発に取り組んでいる各種団体がある。連携したいならば学校から提案をしていくとよい。</li> <li>・防災教育に十分に取り組んでいる。今後も継続するとともに、学校の特色としてもっと宣伝してもよい。</li> <li>・子どもにとって大事だと思うことは信念を持って貫き通すこと、それほどこどもを大切に育てていく気構えと自信を持ってほしい。</li> <li>・防災教育は継続した取組が必要であり、学校教育としての方向性や幼→小→中の連携の必要性を感じる。</li> <li>・音楽会を参観したかった何人かから聞いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル研修会を参観の後に開催し多くの保護者の参加を募る。</li> <li>・年度当初に地域支援コーディネータと地域人材を依頼する計画を話し合う機会を設け、計画的に進める。</li> <li>・防災教育の方向性を考えマニュアル化し継続していけるようにする。</li> <li>・日頃から保護者の方と電話や連絡帳を通じて児童の様子等の情報をこまめに共有し、連携していく。</li> <li>・地域の人材バンク一覧があれば、学習をより系統立てて考えられる。</li> </ul>			
		14	2						2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中の連携は一人一人の子どもたちが次のステージに安心して立ち、歩んでいくことに繋がるもの。子ども理解の共有は確実なものにしたい。</li> <li>・幼保園児は在校生との交流がとても有意義に感じられる。</li> <li>・相互交流の機会を増やしていくことは必要。課題があれば見直していく。</li> <li>・５５交流は今後も継続してほしい。</li> </ul>
		15	2						2		
	保幼小中の連携	16	2	2	<p>○５・５交流や年長・１年生の交流、保幼小中の教員の校種間交流など、必要な機会に定期的に交流できている。</p> <p>○地域の保育園幼稚園に出前授業を行い小学校に入学する心配を少しでも軽減している。</p> <p>○校区研により、保幼小中と合同の研修を行うことができている。</p> <p>●接続カリキュラムを積極的に活用する。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で行う授業や研修会に保幼小の先生方も可能であれば参加してもらえるようにアナウンスを行う。</li> <li>・保幼小の接続期の教育課程の編成を再検討していく必要がある。</li> <li>・教育課程の見直しを検討する。</li> <li>・図書館教育において、毎年スタートカリキュラムのアンケートが実施されているが、保育園・幼稚園で読まれている本、接続期にふさわしい読み聞かせの本の選定は行われていない。今後、検討の余地があるか考えていく必要がある。</li> </ul>				
		17	2					2			
		18	2					2			
組織体制の充実	生徒指導体制の充実	19	3	3	<p>○事案に対して組織で対応できる。</p> <p>○月１回の生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めている。</p> <p>○教育相談月間を１学期と２学期に設定し、教員と１対１で相談できる機会を設けている。</p> <p>○気になる言動、トラブル等その都度児童と話し、生徒指導・教育相談と連携して、組織的に対応した。また家庭や関係機関との連携による指導に努める</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任を含むチームで担当することがよい</li> <li>・学校と家庭が協力して子育てをしているという原則を保護者に徹底し伝え続けることが大切</li> <li>・多様な視点・観点から生徒指導体制の充実が図られている。</li> <li>・チーム和邇で生徒指導に当たっていることを感じる。</li> <li>・基本的なことを学校全体で確認し徹底することが必要。</li> <li>・学習サポーターの活用がより進むことを期待している。</li> <li>・アンケートで評価が下がっているところで、一人一人が何で困っているのか、見えづらいところを何とか見つけてほしい。</li> <li>・R5は連携、共有が少なかったように感じる。児童の関係も良好になったこともあるのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任が意識を高めてクラスの児童と向き合っていく必要がある。</li> <li>・教育相談月間では、全校一斉に相談できる時間を合わせて実施し、確実にいえるようにしていく。</li> <li>・一人一人に活躍の場を与えることを通して、自尊感情や自己肯定感を高められるようにしたい。</li> <li>・いじめの諸課題については、様々なケースがあり、対応が難しくなっている。内容によっては、外部との連携も必要である。</li> </ul>			
		20	3						3		
		21	3						3		
	特別支援教育の充実	22	2	2	<p>○特別支援委員会を実施して児童の様子などを交流し、指導計画の作成や支援方法の検討ができた。</p> <p>○北大津養護学校、子ども発達相談センター等多くの機関と連携をし、子どもの見取り、対応の仕方等のアドバイスをいただいている。</p> <p>●担任だけで複数名の支援をすることは難しい。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの様々な困り感を見つけていくためには、先生方の日々の研鑽にかかっている。子どもたちのための学びを続けてほしい。</li> <li>・ユニバーサル・デザインの授業の方向へ工夫して進めていく。</li> <li>・子どもたち一人一人の障がいに応じたきめ細かな支援をお願いしたい。また保護者との連携を密に寄り添う気持ちでサポートをお願いしたい。</li> <li>・障がいのある子どもへの差別や偏見を正していく子どもの育成に取り組んでほしい。</li> <li>・支援が必要などころにしっかり向き合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画の作成や支援方法についての検討会議を位置付ける。</li> <li>・ユニバーサル・デザインを工夫し特別支援学級の児童が交流教室でも学習しやすくなるようにする。</li> <li>・特別支援学級の児童が交流教室でも活躍できる場を用意する。</li> <li>・学習支援員の積極的な活用、教育相談による取り出し授業、算数科の少人数加配によって、個別最適化の学習につながっている。今後も支援体制を継続する。</li> </ul>			
		23	3						3		
		24	2						3		